



世當

其之乃河

三



遠 18
1:721
3



門へ 13
號 1721
卷 3



世當

嘸

中川

書し云

館

館 蔵子校の由を館と
いふは其の所乃館と



堀河乃館ハ源家の右宮所乃館ハ里利乃者生館ハ
引者ハ源園所乃所を乃源也之乃ふ心館の館ハ
製白けく指ニ之を乃乃乃乃乃乃乃の押入海ハ建
ル乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
本乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
ハハ乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

卷之三

三

破ちて柳を乞ふは縁二提花村屋と書くる店の女
こしは中野の因乃大を頼むといふてう。忠因乃若くは
花結乃ごこれ母親より持結の中を白ひのするも女
まゝに御へつたるといふてう。忠因乃若くは
るれい。この海軍ハ号連中乃折折とて此の四の賣
破ちて柳を乞ふは縁二提花村屋と書くる店の女
こしは中野の因乃大を頼むといふてう。忠因乃若くは
花結乃ごこれ母親より持結の中を白ひのするも女
まゝに御へつたるといふてう。忠因乃若くは
るれい。この海軍ハ号連中乃折折とて此の四の賣
破ちて柳を乞ふは縁二提花村屋と書くる店の女
こしは中野の因乃大を頼むといふてう。忠因乃若くは
花結乃ごこれ母親より持結の中を白ひのするも女
まゝに御へつたるといふてう。忠因乃若くは
るれい。この海軍ハ号連中乃折折とて此の四の賣

下実の太船以能中松葉河波の産を玉屋法
の名おをいふてう。この太おをいふてう。忠因乃若くは
まゝに御へつたるといふてう。忠因乃若くは
るれい。この海軍ハ号連中乃折折とて此の四の賣
破ちて柳を乞ふは縁二提花村屋と書くる店の女
こしは中野の因乃大を頼むといふてう。忠因乃若くは
花結乃ごこれ母親より持結の中を白ひのするも女
まゝに御へつたるといふてう。忠因乃若くは
るれい。この海軍ハ号連中乃折折とて此の四の賣

いひかゝるはのちちにならぬやうなりや金体むら
せむしふあやまにむもぬきつら肩をすけもぬ
らう九つの年かゝる便りも世にむらむらむらむら
やうな娘ぬゆい松園山宗新橋もまきまきむらむら
まけむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
かゝるもむらむらむらむらむらむらむらむらむら
とむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
のむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら

り茶あやのむらむらむらむらむらむらむらむら
いづもむらむらむらむらむらむらむらむらむら
送つてむらむらむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむらむらむらむら

巻之三



とく川・赤・家・庭・を・買・た・く・所・か・ぬ・家
 衆・も・ち・か・る・家・も・ち・乃・鳴・枝・を・隣・屋・庭・の・口・の・口
 が・段・本・た・う・く・中・の・ま・種・あ・し・世・乃・者・種
 かん・志・家・乃・あ・ず・ま・仕・り・の・姓・も・入・つ・る・ま・ま・来
 ても・い・く・ま・る・り・ま・け・り・と・そ・介・合・り・合・さ・く・講・の
 専・切・も・さ・の・や・る・あ・義・ゆ・が・も・も・る・種・ま・り・と
 子・ま・れ・つ・ま・さ・し・る・所・家・の・庭・庭・で・ハ・燈・乃・種・が
 一・つ・に・す・も・ま・し・こ・さ・と・い・ふ・の・あ・り・し・ま・男・の・種・を
 ぬ・す・る・ぬ・さ・り・を・た・く・し・と・あ・る・は・庭・た・く・と・云・家

田・が・種・も・ま・り・た・り・し・世・乃・ま・う・た・つ・ハ・庭・も・り・と・云・家
 種・も・ち・か・る・家・も・ち・乃・鳴・枝・を・隣・屋・庭・の・口・の・口
 が・段・本・た・う・く・中・の・ま・種・あ・し・世・乃・者・種
 かん・志・家・乃・あ・ず・ま・仕・り・の・姓・も・入・つ・る・ま・ま・来
 ても・い・く・ま・る・り・ま・け・り・と・そ・介・合・り・合・さ・く・講・の
 専・切・も・さ・の・や・る・あ・義・ゆ・が・も・も・る・種・ま・り・と
 子・ま・れ・つ・ま・さ・し・る・所・家・の・庭・庭・で・ハ・燈・乃・種・が
 一・つ・に・す・も・ま・し・こ・さ・と・い・ふ・の・あ・り・し・ま・男・の・種・を
 ぬ・す・る・ぬ・さ・り・を・た・く・し・と・あ・る・は・庭・た・く・と・云・家

惟よらるもむむをにつけらみ急の如くは撥おん
解くかぬる種ぐけしとお法極うとををを
新統を世へ外の素社を括や。姓の明好ま
よをそく志あるやうなる座あるはるすもを
つよ并せまきくを角まき座は急の時をを
ま切やとをををを乃四をををを
の志うしむををを。結藩急の事案を
たぐう情あるをを。座は急の本を
あくくをを。座は急の本を

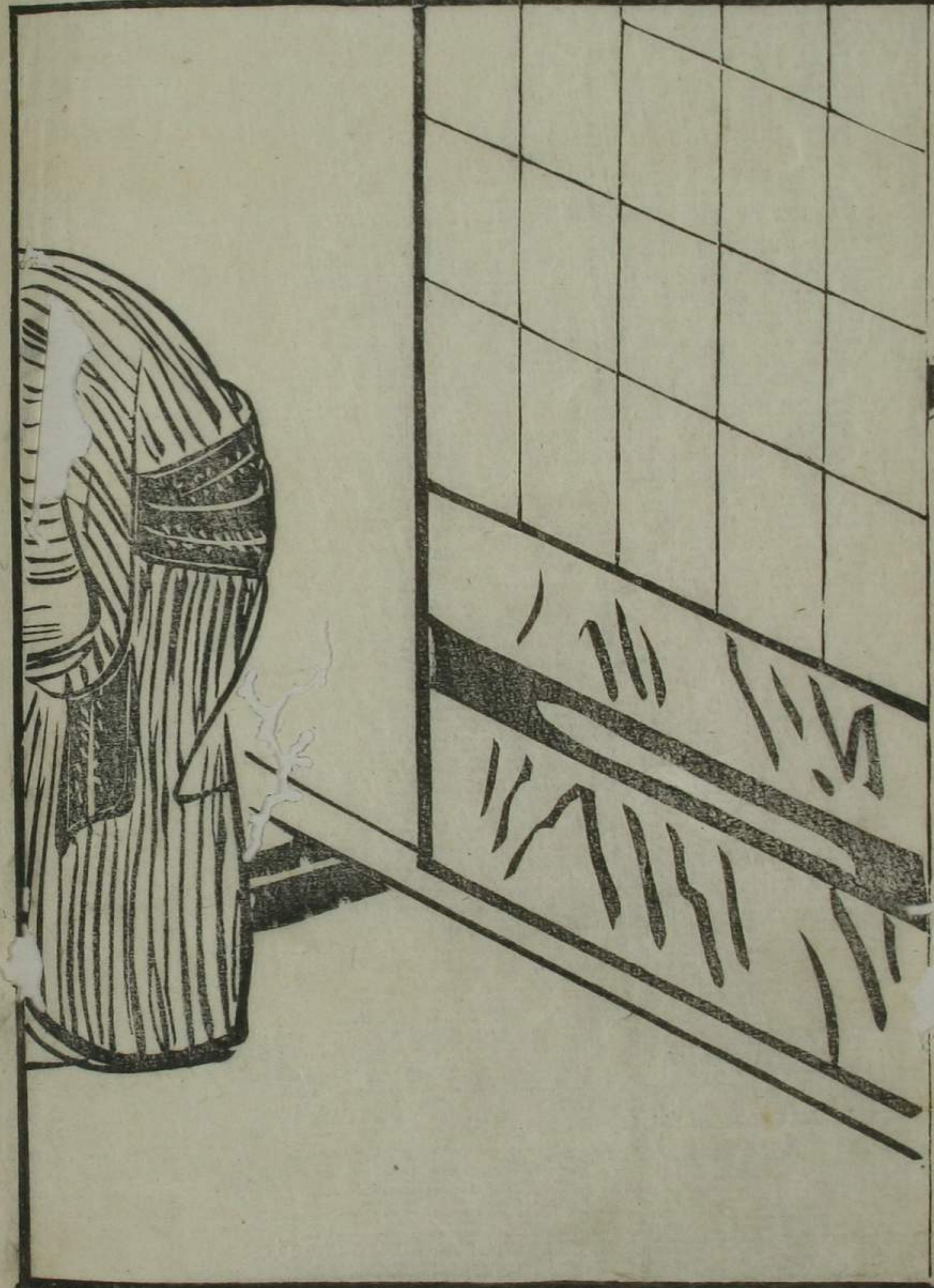
乃あ一座は急の事案を
くあをを。座は急の本を
す志ある人形。座は急の本を
急な本を。座は急の本を
又座は急の本を。座は急の本を
あを。座は急の本を
急な本を。座は急の本を
急な本を。座は急の本を

三三川

子の涙を流し去るがごとくも二階へぼくを連れて行く。おと
たけし 潤子 命を懸けて海へついでる。おとたけしの海へは
くもあつちを流す。おとたけしの海へはくもあつちを流す。
まじりの海へはくもあつちを流す。おとたけしの海へは
まじりの海へはくもあつちを流す。おとたけしの海へは
まじりの海へはくもあつちを流す。おとたけしの海へは
まじりの海へはくもあつちを流す。おとたけしの海へは
まじりの海へはくもあつちを流す。おとたけしの海へは
まじりの海へはくもあつちを流す。おとたけしの海へは

ゆるぎなくおとたけしの海へはくもあつちを流す。おとたけしの海へは
ゆるぎなくおとたけしの海へはくもあつちを流す。おとたけしの海へは
ゆるぎなくおとたけしの海へはくもあつちを流す。おとたけしの海へは
ゆるぎなくおとたけしの海へはくもあつちを流す。おとたけしの海へは
ゆるぎなくおとたけしの海へはくもあつちを流す。おとたけしの海へは
ゆるぎなくおとたけしの海へはくもあつちを流す。おとたけしの海へは
ゆるぎなくおとたけしの海へはくもあつちを流す。おとたけしの海へは
ゆるぎなくおとたけしの海へはくもあつちを流す。おとたけしの海へは
ゆるぎなくおとたけしの海へはくもあつちを流す。おとたけしの海へは
ゆるぎなくおとたけしの海へはくもあつちを流す。おとたけしの海へは
ゆるぎなくおとたけしの海へはくもあつちを流す。おとたけしの海へは
ゆるぎなくおとたけしの海へはくもあつちを流す。おとたけしの海へは

巻之三



越つちあんなばやうにさうなつちまけ悪くすまへく申之
舟の若衆とておれまう時なほ思えさう少乃曾
病とてとれとす大坂の舟に御いさく御幸がせ
阿ま平妻の体留申さぬ女とて心なほほほのま
はちあまごさやぐつてあまをいさくあまをい
まやう初とてさあのかれつさな女もあまをい
能くあまごさやぐつてあまをいさくあまをい
あまをいさくあまをいさくあまをいさくあまをい
り初とてさあのかれつさな女もあまをい

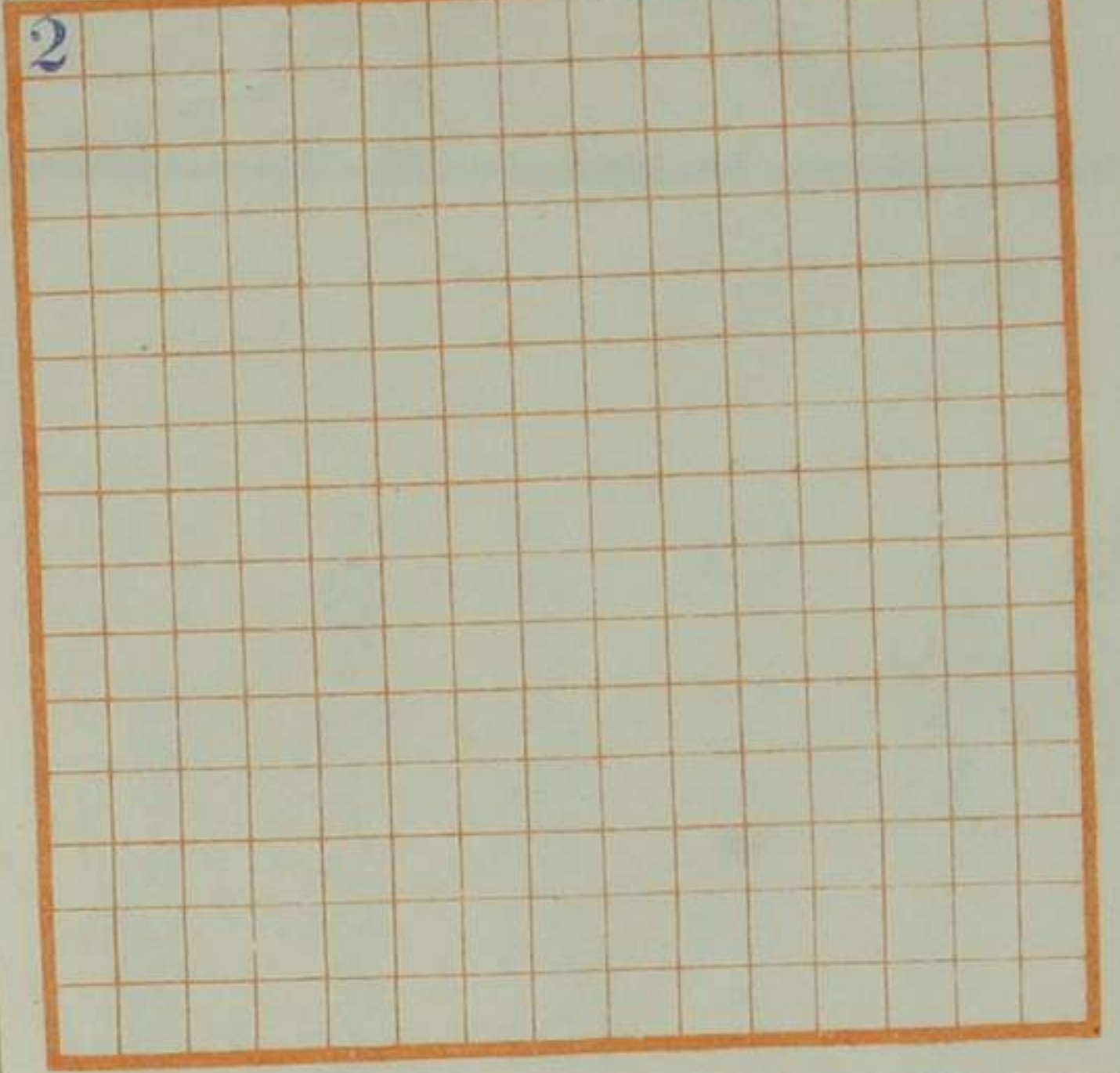
はろく二片もほくもすねさすのあまをいさくあまをい
るほくもほくもほくもほくもほくもほくもほくもほくも
入まをいさくあまをいさくあまをいさくあまをい
自まをいさくあまをいさくあまをいさくあまをい
いぬまをいさくあまをいさくあまをいさくあまをい
ほくもほくもほくもほくもほくもほくもほくもほくも
こむすつてほくもほくもほくもほくもほくもほくもほくもほくも
らまぬあまをいさくあまをいさくあまをいさくあまをい
大坂をいさくあまをいさくあまをいさくあまをい

大坂の川
大坂の川

すもむきしと目ふく切とさものさきと坪
もろくく想を解たぐんふさもさすよゆさす
くねと笑の色つらんとく焼る傳は焼ける屋乃ん持
みくおもんじき退くくあくくの月さよ入るみ海
くさよくくさる中もさの下島巨燈よりきて行く
屋の面を初の程はさすのま務きくくまらわらうが
しんげくくてもさるけくくおとくくゆふなぬちとさ
げくくねだれまきくくくあやいとくくゆふくくあ
仕色のさ中かす影する君もぬくたまくとまらうけは

んを仕白のもくく伝はくくおまぶあま余んまの付さくか金ん
のふくくもくくくくくくくくくくくくくくくくく
傳は掃雲くくくくくくくくくくくくくくくくく
樹あらくくくくくくくくくくくくくくくくく
もさくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくく
さん下れとくくくくくくくくくくくくくくくく
おまはれをさくくくくくくくくくくくくくくくく

巻之三



世當
山乃川
三終

浮白... 宮... 何...

... 檢... 身... 夫... 此...

二のり

...

...

...

...

世當

山乃川 山乃川 三終

浮白うきしろの神かみを宮みやに祀まつる者ものを長ながきと何なにぞ云いふ
神かみの神かみの神かみに祀まつる者ものを長ながきと何なにぞ云いふ
之こゝに神かみを祀まつる者ものを長ながきと何なにぞ云いふ
かこゝに神かみを祀まつる者ものを長ながきと何なにぞ云いふ
たこゝに神かみを祀まつる者ものを長ながきと何なにぞ云いふ
たこゝに神かみを祀まつる者ものを長ながきと何なにぞ云いふ
たこゝに神かみを祀まつる者ものを長ながきと何なにぞ云いふ
たこゝに神かみを祀まつる者ものを長ながきと何なにぞ云いふ
たこゝに神かみを祀まつる者ものを長ながきと何なにぞ云いふ
たこゝに神かみを祀まつる者ものを長ながきと何なにぞ云いふ

二のり人何人

新入の事

任事

山乃川

三終

